

THE ROOF

郡山市立美術館ニュース ザ・ルーフ

2011.9.30 Vol. 38



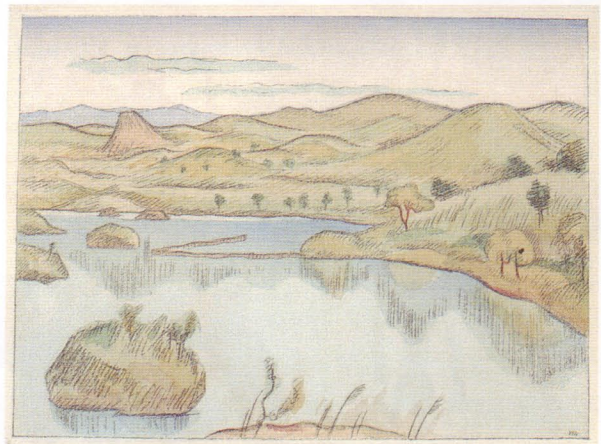
1



2



3



4



5

『日本風景版画』
第二集 会津之部
森田恒友(原画) 伊上凡骨(刻)

- 1「若松城跡」 2「阿賀川」
- 3「川上温泉」 4「磐梯山麓小湖」
- 5「松原湖畔」 6 表紙

※常設展第Ⅱ期(10月19日～)で展示予定

『日本風景版画』は、1917～20年に日本風景版画会から全10シリーズ出版されました。「会津之部」の絵を担当したのは、洋画家の森田恒友(1881～1933)。磐梯山や松原湖、会津城址など、大正時代の福島の自然がのどかに描かれています。戊辰戦争や磐梯山の大噴火などを乗り越え、風光明媚な景勝地へと生まれ変わった姿です。



6

花の画家 ルドゥーテ『美花選』展

後援／ベルギー大使館

会期／平成23年9月3日(土)～10月23日(日)

〔開館時間〕9時30分～17時まで(入館16時30分まで)

〔休館日〕毎週月曜休館。9月19日(祝月)開館 20日(火)休館、

10月10日(祝月)開館 11日(火)休館。

〔観覧料〕一般800(640)円 高・大生500(400)円

()内は20名以上の団体料金

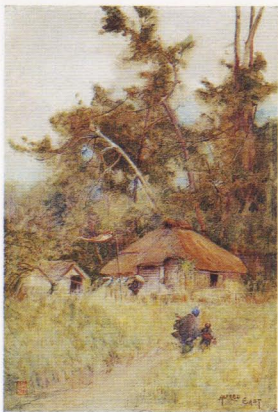
65歳以上、中学生以下、障がい手帳携帯者無料



ビエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ『美花選』より
〔ロサ・ケンティフィリア〕〔アネモネ〕〔ライラック〕〔バラ〕〔バラ、アネモネ、テッセン〕 コノサズ＝コレクション東京

古くから人びとは生活の中に花を取り入れ、心を寄せてきました。現代につながるガーデニングの愛好熱は、18世紀頃にヨーロッパの王侯貴族たちによって広められました。15世紀末の大航海時代以降、世界各地から様々な植物がもたらされ、やがて宮廷文化の中で植物を観賞する園芸趣味が定着していったのです。「バラの画家」「花のラファエロ」と称えられる植物画家ビエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ(1759～1840)は、まさにそうした時代の寵児でした。ベルギー生まれのルドゥーテは、パリで植物画の基礎を学んだ後、ルイ16世王妃マリー＝アントワネットに蒐集室付素描画家として仕えます。フランス革命後には、こよなく花を愛したナポレオン皇妃ジョゼフィーヌの下で活躍することになりました。ルドゥーテは、ジョゼフィーヌがパリ郊外マルメゾン館の庭園に栽培した世界中のバラをはじめ、様々な植物を記録しながらその名を高めていきました。ルドゥーテの代表的な作品には、微細な点刻による銅版画の超絶的な技法が施されています。科学的な視点に基づきつつ、みずみずしさやはかなさといった花たちの風情を宿す芸術性こそ、ルドゥーテの作品が今も人々に愛され続ける理由でしょう。

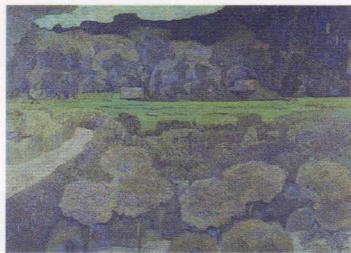
今回の展覧会では、ルドゥーテ芸術の集大成となる銅版画集『美花選』を中心に、代表作で人気の高い『バラ図譜』や『ユリ植物図譜』の一部、貴重な水彩画など約200点が出品されます。時を超えてなお、香り立つようなルドゥーテの花たちを心ゆくまでお楽しみください。(永山 多貴子)



右:トマス・ゲインズボロ
《牧夫と牛のいる森の風景》
左:サー・アルフレッド・イースト
《荒れ模様》

第2室 イギリスの風景画名作選

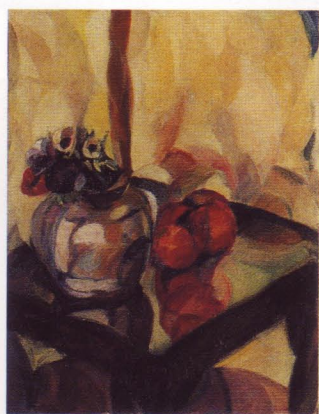
変化に富むイギリスの自然美が描かれた風景画と、明治期に来日したイギリス人が描いた日本の風景画。日本でも珍しいコレクションです。当館の二大“看板娘”《ジェーンの肖像》《フローラ》も展示しております。



第1室 郷土の美術 ふるさとへの想い

福島ゆかりの作家の、主に戦後の作品を展示。人、風景、歴史など、多様な郷土性が感じられます。

右:佐藤静司《風紋》
上:安藤重春《みちのく(蓮田の道)》



第3室 日本の近代美術

明治から昭和戦前までの油絵、水彩画の名品を展示。日本の近代美術の流れをたどることができます。福島の飯坂温泉の絵もありますよ。

左:白滝幾之助《編み物をする少女》 右:恩地孝四郎《黒い机》

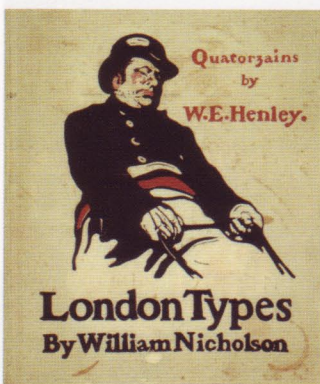
ふるさとへの 想い

—— 収蔵品名作選

10月16日(日)まで
場所:2階常設展示室

今年度最初の常設展は、再オープンにあわせてコレクションの名品を展示しています。震災から守られた郷土の宝を、これからも大切に保管・展示していきたいと思えます。

※常設展示は、3か月に1回のペースで展示替えを行います。



第4-1室 本の美術

挿絵、装丁、文字体・本は、見どころたくさんの芸術品。イギリスと日本の様々な本を展示しています。

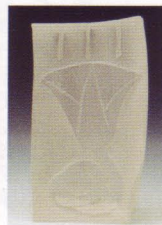
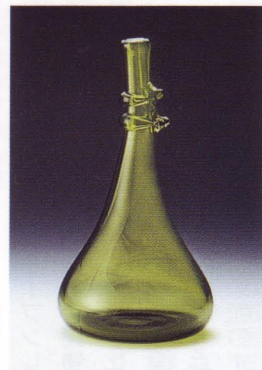


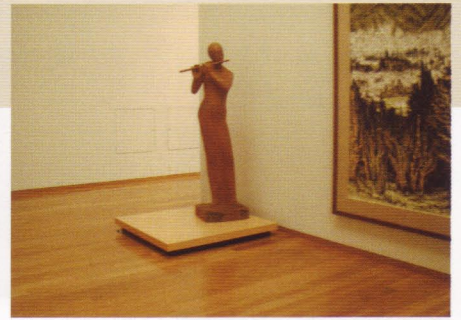
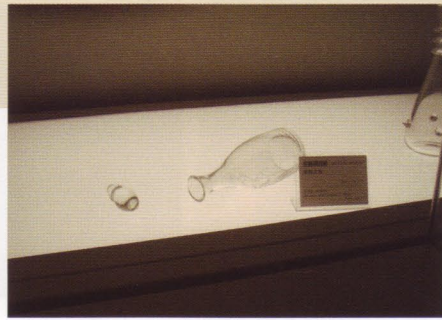
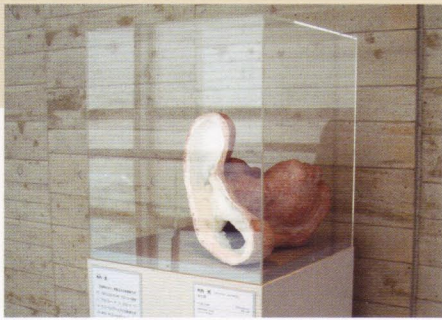
上:ウィリアム・ニコルソン
「ロンドン・タイプス」
下:バーン=ジョーンズ(画)
ケルムスコット・プレス版
「世界の果ての泉」

第4-2室 ガラス百態

郡山市出身のガラス工芸家・佐藤潤四郎の作品を中心に展示。愛らしいキャラクター“ガラスの神様”もいます。ぜひ見つけてくださいね。

右:《花器・何をしようか》
右下:《ブルー花器》
下:《オブジェ・仏足跡ロータス》
左下:《オブジェ・ガラスを吹く人》部分





左：常設展示室廊下。ケースの中で彫刻が転倒 中、右：常設展示室。ガラス作品が転倒し、彫刻が台の上で中央から移動。



東日本大震災レポート

～ 3月11日から7月16日までの美術館 ～

3月11日午後、東日本大震災が発生し、郡山市は最大震度6弱の揺れを観測しました。美術館の当時の状況から復旧、再オープンまでの流れを報告します。

【当日】

地震発生時、企画展示室では「植田正治写真真展」が開催されていたが、10名弱のお客様が観覧中でしたが、職員とともに外庭に避難していただきました。幸いお客様・職員共に負傷者等はありませんでしたが、即時休館となりました。館内設備は、一時断水はありませんでしたが数日で復旧し、停電もありませんでした。

【1階・企画展示室】

開催中だった「植田正治写真真展」は、鳥取県の植田正治写真美術館から作品をお借りしての展示でしたが、幸い作品の落下・破損等はなく、展示技術の堅牢さが大切な



上、中：企画展示室内。可動壁の境がずれているが、作品は無事。スポットライトが数個落下した。
下：常設展示室内。作品は額がずれる程度だった。

【2階・常設展示室】

展示していた美術館の所蔵品約100点は、額のずれや立体作品の転倒などありましたが、落下・破損等はありませんでした。作品は職員で撤去し、収蔵庫に保管しました。被害は天井のひび、温湿度計の落下、固定ガラスケースの

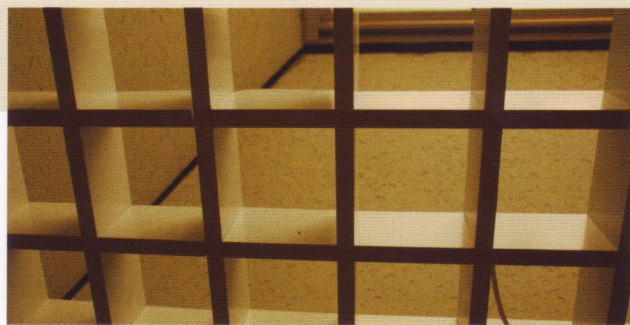
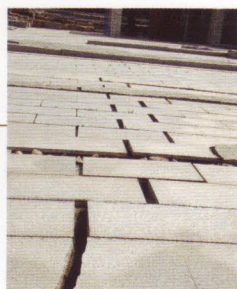
ガラスの一部破損などがありました。天井は企画展示室と同じく工事が必要となりました。

【収蔵庫】

当館の所蔵品約2200点を保管する収蔵庫内は、小型彫刻の転倒・破損や、絵画作品では絵の具の一部剥落などがありました。被害は軽微でした。

【建物・外部】

当館は平成4（1992）年にオープンし、来年で20周年を迎えます。建物自体の損傷は市の施設の中では比較的軽微でしたが、前述の展示室天井に加え、外部キャノピー（玄関までの屋根付き廊下）の床面のずれ、前庭の歪みひび割



右上下:工事が必要となった天井(上:企画、下:常設)

左上:建物と地面の境に隙間が!

左下:亀裂が入った前庭(右)とキャノピー(左)

れ、地盤の落下など被害をうけ、工事が必要となりました。

【休館】

以上のような当館の状況や、県内各地の震災による被害、東京電力福島第一原子力発電所事故等情勢を踏まえ、当面の間休館することになりました。「植田正治写真展」が途中休止となったほか、新年度より開催予定だった「ウッドワン美術館所蔵 近代日本の絵画名品展」と「郡山市・奈良市 姉妹都市締結40周年記念 入江泰吉写真展」が中止となりました。当初、再開の目途は立ちませんでした。夏休みの企画展「リサとガスパール&ペネロペ展」に合わせて再オープンを目指すことになりました。

【再オープンに向けて】

休館中も、職員は館内の復旧のほか、オープン後の展覧会の準備や学校への出張授業、市所管の破損した美術品の引き取り(美術品レスキュー)など様々な業務がありました。また地震翌日から交代で避難所の応援や炊き出しの手伝いなどに参加し、市民の皆様の被災と復興の様子を目の当たりにしながら、再オープンを目指しました。また、美術館にはたくさんのお見舞や励ましの電話・メール等をいただき、再オープンを望む声も市

に寄せられ、大変勇気づけられました。外部の完全復旧は長期間を要しますが、展示室内工事は無事終了し、ようやくお客様をお迎えできる形となりました。

【お客様のいない美術館】

休館中、大きな美術館の建物の中はシンとして、大変寂しいものでした。やはり、美術館は作品とお客様、双方が出会う場所として機能して初めて生きた施設になるのだと感じました。

【隠れた被害】

お客様の目に触れないところは、事務所の学芸員室がさまざまな事態になりました。普段から様々な資料や書類、書籍など、展覧会に役立ちそうなものをため込んで山積みになっているため、それらが崩れて床が見えないほど散乱しました。

【これからの美術館】

「リサとガスパール&ペネロペ展」に続き、「花の画家ルドゥーテ」「美花選」展「破天荒の浮世絵師 歌川国芳展」「駒井哲郎1920-1976」と展覧会のラインナップが続きます。また市民の財産である所蔵品コレクションも、3か月に1度を目安に展示替えをしていきます。また各種行事等も従来通り開催していく予定です。震災に加え原子力発電所の事故という多



床が見えなくなった地震直後の事務所。

美術館各所の放射線量測定値(2011年9月14日時点)

お客様駐車場	0.50
前庭(彫刻《野兎と鐘》付近)	0.36
建物入口	0.14
ギャラリー	0.13
1F企画展示室	0.10
2F常設展示室	0.10
カフェ(8月9日)	0.14

単位はマイクロシーベルト/時

大な被害を被った中ではありますが、少しでも心が潤される場所として、皆様に利用していただければと願っております。

没後一五〇年記念

破天荒の浮世絵師 — 歌川国芳 —

《前期》愉快痛快奇々怪々

平成二十三年十一月十二日(土)～十二月四日(日)

《後期》元気もりもり勇氣りんりん

平成二十三年十二月六日(火)～十二月二十五日(日)

※前期後期で作品総入れ替えします。

〔開館時間〕午前九時三〇分から午後五時まで
〔入館は午後四時三〇分まで〕

〔休館日〕毎週月曜日

〔観覧料〕一般：八〇〇(六四〇)円
高大生：五〇〇(四〇〇)円

() 内は二〇名以上の団体料金

中学生以下、六五歳以上、障がい者手帳をお持ちの方は無料

〔主催〕郡山市立美術館／NHK福島放送局／NHKプラネット東北

〔監修〕惠俊彦(国際浮世絵学会会員) 稲垣進一(国際浮世絵学会常任理事)

〔制作協力〕NHKプロモーション



1

怪



3

遊



2

遊



4

華



5

勇



6

爽



7

憧

江戸時代に
スカイツリー!?

平成の世では同い年の廣重の方が人気があるみてえだが、
天保ではわっちの方が断然センターポジション、なんてな。それはそうと、ありがてえことに
郡山市立美術館でわっちの展覧会をしてくれるんだ。それも二五〇点も出るんだぜ。前期と後期で総入れ
替えしねえと間に合わねえてんだから、おそれ入谷の鬼子母神だ。

さてさて、前期のテーマは「怪」と「遊」。わっちの大得意な妖怪畫に猫や魚たちが大暴れの絵、どうでえ、
愉快だろう。うちの猫たちは階段昇りながら、はたまた字を書きながらリフティングするんだぜ。名づけて
「ねこなでジャパン」。えっ?平成にも似たような足技の得意な「ジャパン」がいるって?そいつは結構毛だ
らけ猫はいだらけ、てね。

後期は武者絵や芝居絵、役者絵と元気いっぱい、気持ちのいい絵をそろえた「勇」「華」「爽」に
「憧」。水滸傳に忠臣蔵、おなじみのヒーローが大活躍だ。そうそう、わっちの「東都三ッ股の圖」に
出てくる塔とそっくりな塔をおめえさん方造ってるそうじゃねえか。そりゃバクリじゃねえのか。違うか。
あはは、違うか。

ところでなあ皆の衆、今年はずらいことがあったけど、わっちの絵を見て大笑いして、
元気を出してくんねえ。元気になっていい年をお迎えください。江戸の世から
お祈りしておりやすよ。

わっちは歌川國芳。



〔前期出品〕

- 1 「怪」相馬の古内裏
- 2 「遊」流行猫の曲手まり
- 3 「遊」人をばかにした人だ

〔後期出品〕

- 4 「華」四代目中村歌右衛門の大量由良之助
- 5 「勇」通俗水滸傳豪傑百八人之一個
早地忽律朱貴
- 6 「爽」山海愛度図会 づいたたい
- 7 「憧」東都三ッ股の図

落合芳幾画
歌川国芳死絵(部分)
太田記念美術館所蔵
前期出品



浮世絵の摺りを匠な手技で再現

平成22年11月13日(土)・14日(日)

講師:伊藤達也さん

(浮世絵木版画彫摺技術保存協会員)

場所:企画展示室前ロビー

参加者:334人

「北斎漫画展」に合わせて、葛飾北斎の「富嶽三十六景」の摺りを実演していただきました。摺りを重ねて、画面が変化していく度に歓声が。熟練した伝統の職人技に熱い視線が集まりました。

「風土記の空 第3回郡山市内の中学校美術部・選択美術による作品展」

前期:平成22年11月23日(火)~12月5日(日)

参加校:明健中、逢瀬中、守山中、高瀬中、緑ヶ丘中

後期:12月14日(火)~12月26日(日)

参加校:郡山第一中、郡山第四中、郡山第五中、
富田中、宮城中

中学生が制作した作品を、生徒自ら展示しました。
若い感性が大きく発揮された展示となりました。



体験!演出写真

平成23年3月6日(日)

講師:瀬尾浩司さん(写真家)、

松崎理さん(アートディレクター)

場所:多目的スタジオ

参加者:20名

「植田正治写真展」に合わせて、ミニ砂丘スタジオを舞台に受講者の皆さんが作品の一部となった面白い作品を作りました。



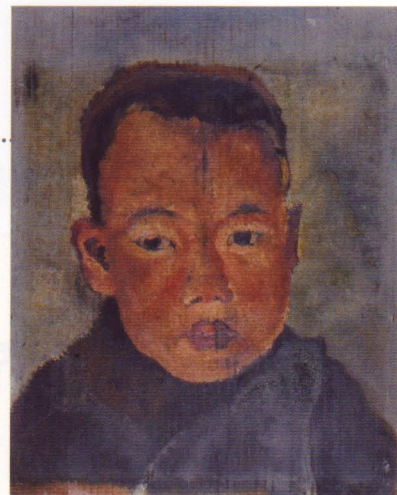
修復作品報告《徳坊》 平成19年度に当館の収蔵品となり、修復を経て綺麗になった徳ちゃんです。

草土社という画会の会計係を務め、作品も同展に出品し続けました。《徳坊》は、1918(大正7)年12月の第6回草土社展に「非売」として出品され、同展出品目録に図版が掲載されています。ちょうど劉生のモデルになった年に描かれたものということになります。川幡が草土社に出品していた頃の作品はこれまでほとんど知られていませんでしたので、研究者の間でも「謎」とされていた画家でした。それが、別の画家の調査をしている間に偶然この作品が発見され、当館に寄贈された次第です。

当時の目録に図版が掲載されていたことから、この作品の評判が非常に良かったことがうかがえます。特に、同じ草土社の仲間である木村荘八は、「大正七年作の『徳坊』と云ふ様ものだと、此の人独特の飄逸な愛情が何所か筆端に覗くので面白い」(『みづゑ』第234号、大正13年8月、春鳥会)と後に書いています。モデルの特定はできませんが、小さいサイズながらもムスツとした徳ちゃんの表情はどこか滑稽です。そこがこの作品の魅力になっており、性格は濃厚で誰からも信頼される人物だったといわれる川幡の人柄を感じさせる佳作です。

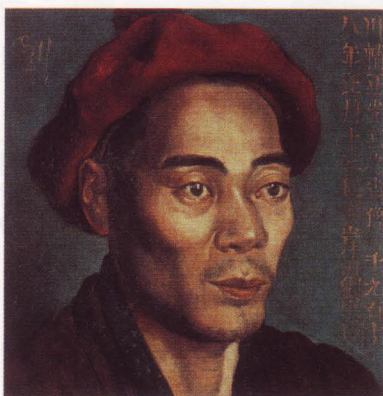
当館では、岸田劉生、木村荘八、河野通勢、中川一政、横堀角次郎といった、草土社の画家たちの作品を収蔵していますが、この作品によってより一層その充実を図ることができました。

(菅野 洋人)



川幡正光《徳坊》
1918(大正7)年 油彩・板 22.4×18.2cm 加藤富士子氏 寄贈

川幡正光(鹿児島生まれ 1890~1973)は画家としてはあまり知られていませんが、大正時代を代表する洋画家岸田劉生の代表作のひとつ、《川幡正光氏之肖像》(1918年作 東京国立近代美術館蔵)のモデルとしてその顔はよく知られています。そもそも、原宿で写生をしていたところ、偶然劉生と知り合って意気投合したことからふたりの交遊は始まりました。以来、川幡は劉生が中心になって始めた



岸田劉生《川幡正光氏之肖像》
東京国立近代美術館所蔵
(「没後50年記念岸田劉生展力タログ」(1979年)より転載)

イベント

ミュージアム・シアター

「マリー・アントワネット」(2006年)

10月22日(土)午後2時から
ソフィア・ Coppola監督 120分 字幕

「妖怪大戦争」(1968年・大映)

11月19日(土)午前11時から
黒田義之監督 79分

「妖怪大戦争」(2005年・角川)

11月19日(土)午後2時から
三池崇史監督 124分

「東海水滸伝」(1945年・大映)

12月10日(土)午後2時から
伊藤大輔・稲垣浩監督 83分

「忠臣蔵 天の巻・地の巻」
(1938年・日活)

12月17日(土)午後2時から
マキノ正博・池田富保監督 103分

場 所:多目的スタジオ 入場無料
※作品によってはDVD上映となる場合がございます。

T O P I C S

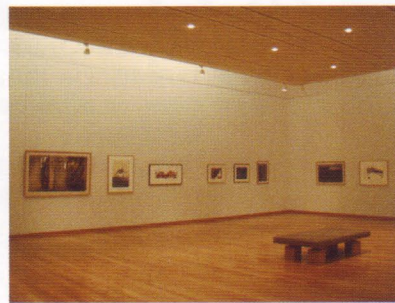
○常設展観覧料が変わりました

- 一 般 200円(150円)
- 高・大生 100円(70円)
- ()内は20名様以上の団体料金

※企画展観覧時は企画展チケットで常設展も
ご覧になれます。

○本のご寄贈

当館所蔵作家でもある折笠光助様、ならびに
佐久間正様から、美術全集ほか豪華版美術書
籍等をご寄贈いただきました。



展示室



土橋醇
《タルヌ峡谷のコンポジション》



小杉未醒(原画)伊上凡骨(刻)
『日本風景版画 第七集 琉球之部』より

常設展示のご案内 ※展示内容は、一部変更になる場合がございます。

■10月16日(日)まで
ふるさとへの想いー収蔵品名作選
展示室1 郷土の美術
展示室2 イギリス近代美術
展示室3 日本近代美術
展示室4 本の美術/ガラス工芸

■10月19日(水)～1月29日(日)
展示室1 ターナーとコンスタブル
展示室2 亀井至一・竹二郎の風景描写
展示室3 土橋醇とアンフォルメル
展示室4 楽しい木版画/ガラスの美



カフェ「フローラ」閉店のお知らせ

震災の影響により、現在カフェは営業しておりません。休憩場所としてご利用できません。皆様にはご不便とご迷惑をおかけいたしておりますが、何卒ご了承ください。